

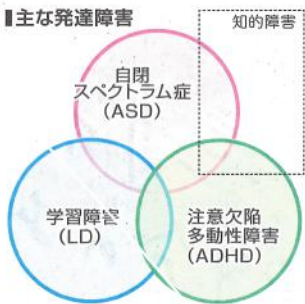
ASD 伝え方工夫して

あすから発達障害啓発週間

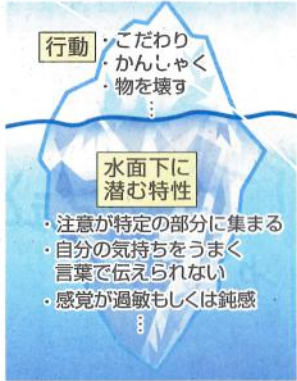
自閉スペクトラム症(ASD)という言葉をよく耳にするようになった。発達障害の一種で、以前は自閉症やアスペルガー症候群と呼ばれていた。「コミュニケーションや予想外の出来事が苦手な傾向があり、子どもだと「わがまま」と誤解されやすい。対応に悩む親も多いだろう。ASD支援が専門の重松孝治・川崎医療福祉大講師は「特性を踏まえた上でその子と向き合うことが大切。伝え方を工夫し、『やれる』環境を整えてあげて」とアドバイスする。2日は世界自閉症啓発デー、2〜8日は発達障害啓発週間。(小若菜美)

川崎医療福祉大・重松孝治講師

「子どもが混乱している理由が分からない」。重松さんの下にASDの子どもを育てる保護者からよく寄せられる相談だ。急に固まって動けなくなったり、かんしゃくを起したり…。なぜ、そんな行動をするのだろうか。氷山の図で考えると分かりやすい。海面からのぞく部分が「こ



ASDの子の行動や特性を表した氷山の図



「否定語を使わず、ポジティブな言葉で伝えてあげて」と語る重松さん



しげまつ・こうじ 1976年大阪生まれ。大阪教育大卒、同大学院修了。特別支援学校教諭などを経て2019年4月から現職。岡山県内の幼稚・保育園や小中学校での巡回指導、高校での教員研修を担当。20年度から県自閉症児を育てる会主催の保護者向け連続講座で講師を務める。倉敷市在住。

特性を踏まえ向き合う

岡山県内の発達障害に関する主な相談先		
おかやま発達障害者支援センター(岡山市)	086-275-9277	対象/岡山県民(岡山市を除く)、受付時間/月~金曜(祝日を除く)午前9時~午後5時
おかやま発達障害者支援センター-県北支所(津山市)	0868-22-1717	対象/岡山県民(岡山市を除く)、受付時間/月~金曜(祝日を除く)午前9時~午後5時
岡山市発達障害者支援センター「ひか☆りんく」(岡山市)	086-236-0051	対象/岡山市民、受付時間/月~金曜(祝日を除く)午前8時半~午後5時15分
■【親による電話相談】		
NPO法人岡山県自閉症協会(岡山市)	086-801-4009	対象/不問、受付時間/金曜(祝日を除く)午前11時~午後2時
NPO法人岡山県自閉症児を育てる会(赤磐市)	086-955-3162	対象/岡山県民、受付時間/月~金曜(祝日を除く)午前9時~午後6時

SDの特性が積み、行動を起す要因となっている。混乱させないためにできることは、曖昧な表現を避けて具体的に伝えること。定型発達の子は周囲の人の言動や状況から自分の取るべき行動を考えるが、ASDの子はそれが難しい。「『してはいけない』と注意されても、代わりにどうしたらいいのかわからない。ストレートに『しよう』と言ってほしい」と重松さん。見本を示すと、より伝わりやすいという。

事前にイメージを具体化させておくことも重要だ。例えば、小学校進学を控えて不安になっている。もし、混乱してしまったら。まずは落ち着かせることに徹してほしい。体を動かして発散する▽静かな場所で休む▽興味のあるものに気持ちをそらす▽など方法はそれぞれ。服薬という選択もあるが、重松さんは「飲ませて終わりではなく、その上で落ち着ける方法を一緒に探してあげて」と勧める。混乱時は何を言い聞かせても頭に入らないので、クールダウンしてから伝えたい。ASD支援で大切なことは、理解しようとする。当事者の手記や講演、映像作品などを通じて、私たちが暮らす社会を彼らがどのように感じているのか知ってほしい」と重松さんは訴える。発達障害を特別なものとせず、受け入れる社会の実現が望まれる。

ケース。可能であれば、入学式の数日前に下見に行く。教室や座席を確認し、担任の先生と顔を合わせておけば「これならやれそう」と見通しを持てるだろう。なるべく実際に近い形が望ましいが、現地に行けない、現物がない、といった場合は映像や写真を見せるという。「無理に何かをさせる必要はない。ただ、諦めてほしいもない」と重松さんは力を込める。ある保育園には、一度も発表会に出られなかったが、今年長男がいた。担任がどうすれば参加できるか考え、大好きなカメラが登場する「浦島太郎」の劇をすることにした。すると、その子は衣装作りから加わり、本番も楽しめたという。このように、本人の興味があることを取り入れたら、できるようなるケースもある。